



●司 会

桑名 正隆

日本医科大学大学院医学研究科アレルギー・膠原病内科学分野教授

●出席者

近藤 康博

公立陶生病院 副院長 / 呼吸器・アレルギー疾患内科
部長

安岡 秀剛

藤田医科大学医学部リウマチ・膠原病内科学講座教授

田村 雄一

国際医療福祉大学医学部循環器内科学教授

(五十音順)



膠原病に伴う肺高血圧症の 課題と将来展望

膠原病に伴う肺高血圧症(CTD-PH)は、スクリーニングによる早期発見と肺血管拡張薬の導入により生命予後が改善した。しかし、純粋な第1群肺動脈性肺高血圧症(PAH)(特発性/遺伝性PAH)に比べて機能・生命予後の改善は十分とはいえない。その理由として、PAHに加えて肺静脈閉塞症、左心疾患、間質性肺疾患(ILD)など複数の臨床分類が混在する例が多いことが挙げられる。一方、CTD-PAHには免疫抑制療法が著効する可逆性病態もあり、個別医療の実践が求められる。さらに平均肺動脈圧(mPAP)21~24mmHg症例での治療可否、治療ゴールの設定などCTD-PH領域の課題は数多い。本座談会では膠原病内科、呼吸器内科、循環器内科のエキスパートの先生方にお集まりいただき、CTD-PHの諸課題についてディスカッションいただいた。

本座談会はオンラインで開催いたしました